

## 地蔵寺地蔵堂の

## ひとぼし行事（瀬井地区）

去る6月24日（水）、瀬井地区の地蔵寺地蔵堂で「ひとぼし」行事が行われました。地蔵寺は真言宗の寺院で、その沿革については明らかではありませんが、境内入り口には延享元年（1744年）に奉納された半鐘があり、江戸時代には瀬井村（当時）の檀那寺であったと考えられます。行事が行われた地蔵堂は、明治30年（1897年）に建て替えられたものです。

「ひとぼし」は、区の行事として毎年6月24日に行わ



半鐘（高さ 61 cm）

れているものです。19時ごろに区長などの役員が参集し、お供えや108本のろうソクの準備が行われます。19時30分を目途にろうソクに火が灯され、参加者で般若心経を唱えます。昔は、かわらけ（素焼きの土器）に菜種油を入れて火を灯したそうです。

「ひとぼし」は、「火をともし」から転じた言葉と思われ、各地で行われている神仏への献灯行事の一つだと考えられます。町内では、宮川地区の毘沙門堂で提灯（ちょうちん）を用いた「ひとぼし」行事が行われていたそうです。

和歌山県内では、地蔵の行事は8月の地蔵盆に行われることが多く、6月に行われるのは珍しいと思われる。108本の灯明は、煩惱の数を表していると考えられますが、行事の意味や由来などについてはよく分からなくなっています。毎月24日は地蔵の縁日であることから、地蔵の供養の他に五穀豊穡や無病息災などさまざまな祈願を行う行事であると考えられます。



ひとぼしの様子